「肺がん検診の手引き」にて「読影医の条件」に挙げられている「症例検討会・読影講習会」の実施要項

1. 肺がん検診のための胸部単純X線症例検討会
   1. 胸部X線検診例の肺癌に関する画像読影を主としたものに限る。胸部X線検診の画像読影結果と臨床経過を把握・検討することを通じて検診の精度管理にも有用であることから、最も推奨する。自施設・自地域で実施した検診に関する症例検討会であることが、精度管理の面からも読影力向上の面からも最適である。
   2. 具体的な症例検討会の開催方法については、日本肺癌学会ホームページの「肺がん検診について」のページを参照。時間は通常1時間～2時間程度だが、最低でも30分は必要である。
   3. 「胸部X線検診の判定基準」に関する説明・確認を含む必要がある。
   4. 医療機関での臨床例・手術例などに関する症例検討会は含まれない。
   5. 症例検討会を開催した組織（検診機関・医師会・自治体など）は必ず「参加証・受講証」を発行する。「参加の証明」は必ず「参加証・受講証」にて行う。
2. 肺癌診断を主とした胸部Ｘ線読影講習会
   1. 日本肺癌学会としては、精度管理の面からも「肺がん検診のための胸部単純X線症例検討会」の実施を強く推奨する。やむを得ず開催できない場合などには、以下に示すような条件のもとで実施された「肺癌診断を主とした胸部Ｘ線読影講習会」への参加をもって代替できる。「当該講習会への参加の証明」は必ず「参加証・受講証」にて行い、その発行の規程は以下の内容に従う。
   2. 日本肺癌学会学術集会時の「肺がん検診読影セミナー」への参加（ＷＥＢ参加を含む）は「肺癌診断を主とした胸部Ｘ線読影講習会」として認定する。認定に必要な参加時間などは「参加証発行」の規定に従う。
   3. それ以外の読影講習会の場合には、以下のすべての条件を満たす必要がある。
      1. 「肺癌診断を主とした胸部X線読影に関する講習」部分が、質疑を含めて60分以上である。
      2. 「胸部X線検診の判定基準」に関する説明・確認を含んでいる。
      3. 実講習の場合には、講習の開始時と終了時に参加していることを確認し、「全講習内容を受講した者」のみに「参加証・受講証」を発行する。
      4. WEB下の読影講習会の場合には、以下の内容が求められる。
         1. 視聴のログの把握ができることは必須。
         2. 内容が「I、II」を満たしていることは必須。
         3. 配信のビデオ品質は、胸部X線画像の配信に十分な画質で行う必要があるため、解像度は最低でもHD（720p）以上を目標とする（注１）。
         4. 受信側は画面サイズ 10.1 インチ以下のタブレットやスマートフォンなどの、いわゆるモバイルデバイスでの受講は避け、少なくとも解像度1メガピクセル以上のモニタ（注２）で、全画面モードで受講する。主催者側は、適切なモニタなどの条件に関して受信者側に通知を行う。可能であればDICOM Part14にキャリブレーションされたモニタが望ましい。
         5. 講習内容に「小テスト」「視聴パスワード」などを挿入することにより「視聴の確認や理解度のチェック」を行うことが望ましく（注３）、現時点で実施困難であれば実施できるよう検討する。
         6. 「参加証・受講証」は、視聴ログにて「講習内容を100％視聴した者」のみに発行する。「5」のような「視聴確認」を行った場合には、「100％視聴して、かつ視聴確認ができた者」のみに発行する。
      5. 講習会開催の３か月前の月の1日～10日までの間に「日本肺癌学会　肺がん検診委員会」あて（メールの宛先は[office@haigan.gr.jp](mailto:office@haigan.gr.jp)）に所定の「認定申請書」を提出し認定を受け、日本肺癌学会ホームページの「肺がん検診について」のページで認定を受けたことが公表されたものであること（結果は申請月の月末までに公表される）。ただし、この認定申請制度は2022年3月現在未発足なので、正式発足までは本条件は省略可能である。正式な申請受付の開始は2022年5月1日を予定しているので、2022年8月以降に予定するものは事前申請が必要である。
      6. 講習会開催後1か月以内に「日本肺癌学会　肺がん検診委員会」に所定の「講習会開催報告書」を提出すること。ただし、認定申請制度の正式発足までは本条件は省略可能である。
         * 1. ZOOMやGoogle Meetなどの一般的な配信システムでもHD画質は設定可能である。
           2. 1メガピクセル以上のモニタとは、WXGA+(1440Ｘ900)、SXGA（1280x1024）など以上の解像度を有するものである。
           3. 視聴の確認や理解度のチェックは、多くの配信システムにおいて「アンケート機能・クイズ機能」を利用することにより、容易に実行可能である。
3. 胸部Ｘ線画像の読影を主としたＷＥＢ下の読影演習
   1. 日本肺癌学会が提供する「肺がん検診のための胸部X線読影演習」は、胸部X線の読影技術の向上に有益と考えられる。近い将来、この「肺がん検診のための胸部X線読影演習」を用いて、「所定の方法にしたがって演習を行うことで、『肺癌診断を主とした胸部Ｘ線読影講習会』への参加の代替とできるシステム」を構築することを検討中である。